

津博

TSUHAKU

2024.2 No.119

トピックス

- ・特別展「ノスタルジアー少し昔の津山ー」開催
- ・ミニ企画展「お正月展ー辰ー」開催

館長随想

- ・消えた鏡あらわれ、ふたたびどこかへ
ー田邑丸山2号墳の三角縁神獣鏡ー

小郷 利幸

資料紹介

- ・考古資料この一点⑨
ー美和山古墳群の埴輪ー

小郷 利幸

お知らせ

- ・企画展「郷土の刀剣Ⅲ」開催

【型紙(部分)(個人蔵)】



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

令和5年度特別展 「ノスタルジアー少し昔の津山ー」を開催しました。

令和5年11月4日（土）から12月17日（日）まで令和5年度特別展「ノスタルジアー少し昔の津山ー」を開催しました。本展では津山郷土博物館で収集、把握している津山地域関連の写真のうち、大正時代～昭和30年代のもの約70点を「移り変わる津山」「川の情景」「津山の橋」などのテーマに分けてパネル展示しました。

展示会場では来館された方々が写真パネルや参考として展示した現物資料を見て、しきりに懐かしがる姿を度々見かけました。会期中はギャラリートークを3回開催し、各回10人以上の方にご参加いただきました。学芸員から写真の詳しい説明を受け、改めて津山の近代に興味を持たれた様子がかがええました。

また、12月9日（日）には記念講演会として、岡山地方史研究会会員の日下隆春先生に「近代津山の産業」と題してご講演いただきました。本展は非常に好評を博し、会期中に1,600人を超える方々に観覧していただきました。



ギャラリートークのようす



記念講演会のようす

ミニ企画展「お正月展ー辰ー」を開催しました。

令和6年、2024年の干支は辰です。令和5年12月23日（土）から令和6年1月14日（日）まで辰にちなんで、想像上の生き物である龍に関する資料を展示しました。龍は空を飛んで雲をおこし雨を呼ぶ霊力があるとされています。縁起が良いとされている富士山と昇り龍が描かれた画や、龍が水と密接に関わっていると考えられていたことがわかる資料などを展示しました。



ミニ企画展のようす

消えた鏡あらわれ、ふたたびどこかへ

田邑丸山2号墳の三角縁神獸鏡

小郷利幸

はじめに

これまでに美作地域で出土し、行方がわからない考古遺物に、苫田郡鏡野町の銅鐸、津山市の田邑丸山2号墳の鏡がある。

前者は、昭和49年鏡野町塚谷で2個の銅鐸が出土し、実際それを見た人がいたにもかかわらず、行方不明のままである(註1)。50年ぐらい前の出来事ではあるが、銅鐸ということもあり、今後見つかる可能性は低いであろう。

後者の田邑丸山2号墳は、市内下田邑に所在する前方後方墳で、かつて4面の鏡が出土したとされ、その内の三角縁波文帯三神二獸博山炉鏡の写真(写真1)が、津山市史(昭和47年刊、註2)に掲載されている。鏡の出土経緯は、昭和34、35年頃に本古墳が盗掘され、その際に4枚の鏡が出土、その後昭和36年に津山市の古物商の交換会を経て、いずれも所在不明となった。前掲津山市史の執筆者今井堯が、その内の鏡1面の写真をなんとか入手した(註3)。

筆者が、その後本古墳の調査(註4)に携わることとなり、鏡出土の経緯などをお借りすることができ、さらにその写真も所有者も知り得ることができた。その際に鏡の所有だその時は何も対応できなかった。

60年ぶりに消えた鏡あらわれる

オークションに田邑丸山2号墳の鏡がでていたとの情報を得て調べると、京都の古裂會第133回入札オークションに鏡が出品されていた(註5)。鏡の出土地は明記されていなかったが、一部が欠落していることで、市史掲載の鏡と同一で間違いなことが確認できた。直径20cmを超える大型鏡のカラー写真が掲載されていて、これまでわからなかった、表面や裏面細部まで見ることができた。

なおオークションと言うこと、さらに高額が予想されることもあり、即対応もできず入札も終了したため、ふたたび鏡はどこかへ消えてしまった。

おわりに

今となればかつて写真をお借りした際に、もう少し何かできなかったかと悔まれる。今回鏡の現物を見ることはできなかったが、カラー写真が唯一の救いである。

津山市で確認できる三角縁神獸鏡はこれが唯一であるので、もし借りる事が出来たら是非展示したいものである。くしくも令和6年度の特別展は、美作津山の古墳時代をテーマにする予定なので、その目玉になったはずである。



写真1 三角縁波文帯三神二獸博山炉鏡 (註4より引用)

註

- (1) 山陽新聞昭和50年3月13日「鏡野(岡山)で、幻の銅鐸、2つ」
- (2) 今井堯1972「原始社会から古代国家の成立」『津山市史第1巻』
- (3) 今井堯1998「消えた鏡と出土地不明鏡」『歴史研究447』戎光祥出版
- (4) 津山総合流通センター建設に伴い調査後古墳は保存される。津山市土地開発公社・津山市教育委員会2000「田邑丸山古墳群」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第67集』
- (5) 古裂會2023「古裂會第133回入札オークション」、古裂會のホームページにカタログが掲載されている。

考古資料この一点⑨

美和山古墳群の埴輪

小郷利幸

はじめに

古墳時代の展示コーナーに美和山古墳群の埴輪を展示している(写真1)。美和山古墳群は津山市二宮に所在し、前方後円墳1基(1号墳)と円墳3基(2・3・6号墳)で現在構成される。1号墳は全長80m、美作最大規模を測り、2・3号墳も直径34・36mの大形円墳で、国指定史跡となり、古墳公園として整備されている。整備に先立ち、確認調査され1〜3号墳には河原石による葺石があり、埴輪片がかなりの数出土している(註1)。この埴輪の紹介と美作地域の埴輪の有無などによる前期首長墳の様相について考えてみたい。



写真1 埴輪展示風景

資料紹介(図1-1〜9)

展示している埴輪の一部を図1に示している。1〜4が1号墳出土である。

1・2は壺形埴輪の頸部や口縁部付近で、頸部には三角の透かしが見られる。3・4は円筒埴輪で3はタガの部分で下段にのみナメ方向の直線の線刻が交互に見られ、4は底部で外面はタテハケで端部は横方向にナデている。

5が3号墳出土で、円筒埴輪のタガの部分で両段とも外面に同様な線刻がある。

2号墳は今回図示していないが、3号墳同様な線刻がある埴輪が出土している。

1〜3号墳とも埴輪の点数は多く、線刻があるなど特異な埴輪であるが、破片が多くこれまで全体像が明瞭でなかった。最近の研究では畿内の類例から復元が試みられ検討されている(註2)。

6〜9が実測図からの復元図で、6・7が1号墳、8が2号墳、9が3号墳である。それによると、6は二重口縁で三角の透かしのある壺形埴輪に、7は朝顔形埴輪に復元でき、タガを挟んだ両段に線刻はない。8も朝顔形埴輪に復元できるが、7と比べ壺部との境のタガが省略されている。9は円筒埴輪でタガを挟んだ両段に線刻があり、口縁部付近まで線刻が施されている。これらの事から、1号墳から2・3号墳

への型式変遷が考えられる。

美作地域の埴輪をもつ前期古墳(図1-10〜13)

これまでの事例から美作地域の前期古墳で埴輪をもつものは前方後円(方)墳やそれに付随する大形円墳などに限られる。

本例の他には津山市油木北の奥の前1号墳(註3)、勝央町美野の美野高塚古墳(註4)があるのみである。これらの埴輪を図1に載せている。

10・11は奥の前1号墳出土である。この古墳は全長65mの前方後円墳で、埋葬施設は後円部に長持ち形石棺、前方部に木棺があり、前者から鏡、短甲、鉄剣など、後者から鏡などが出土している。10は円筒埴輪で外面はタテハケ、三角形の透かしが、口縁部とその下に交互にある。11は楕円形の円筒埴輪で、タガが2段、外面は底部はタテハケ、それ以外はタテハケ後ナメハケである。

12・13は、美野高塚古墳からの出土である。この古墳は全長65mの前方後方墳であるが、墳丘図を見ると、後方部の2段目から上は円形であるので、前方後方墳の上に前方後円墳がのっている形状である。この美野地区周辺は、前方後方墳が集中する特異な地域である。12は円筒埴輪のタガの部分で、



図1 美作地方前期古墳の埴輪 (1~5、12・13…S=1:3、6~11…S=1:10)

外面にヨコハケ、内面はハケ後ナデ調整、13はタガがはがれており、外面はタテハケ、内面はナデ調整である。いずれも小片のため全体像は不明である。このほかに土師器片も採集されている。

おわりに

美作の埴輪をもつ前期古墳は以上のように少なく、なおかつ規模の大きい古墳に限られる。美作のこれら古墳は、概ね美和山1号墳↓奥の前1号墳↓美野高塚古墳と変遷するとされ(註5)、いずれもそれぞれの時期の最大規模のいわゆる盟主的な古墳でもある。古墳の場所は美和山1号墳が吉井川の北岸の津山盆地、奥の前1号墳が倭文川流域、美野高塚古墳が滝川流域で、それぞれ地域が異なる。この事から時期ごとに埴輪をもつ盟主的な古墳が場所を移動している事が推測される。さらにそれらと良く似た墳丘をもつ吉備南部の古墳は、例えば美和山1号墳は岡山市の中山茶臼山古墳(105m、註6)があり、線刻がある埴輪(註7)も伴い、墳丘規模も100mを超えることが知られている。このことから、吉備の南部と北部で墳丘規模に規制的な制約があったものと推測される。

の右側が埴輪をもつおおまかな流れで、指摘したとおり全長65m以上の規模の大きい前方後円(方)墳もしくは関連する大形円墳(図2-1-11)で、埴輪を持たず二重口縁壺をもつものは、図2左側で全長60m以下クラス(同-12-19)のようである。さらに全長45mクラスの前方後円(方)墳は、香々美川流域の田邑丸山2号墳(同-14-16、註9)、赤峪古墳(同-17-18、註10)、加茂川流域の近長四ツ塚2号墳(同-19、註11)など各支流域に分布するようで、二重口縁壺の出土が知られているものが多い。この類いの二重口縁壺による祭式は、弥生時代から続く在地的な祭祀形態からの系譜と位置付けていて、さらにその下にある、小規模な円墳・方墳(註12)にも同様な壺が出土しており、同様な祭祀形態が小規模古墳にまで広く浸透していることが推測される。

以上のように美作の古墳時代前期においては、埴輪による盟主的な支配の中に二重口縁壺による在知的な祭祀形態による支配といった、二重構造となっていることが窺える。

註

- (1) 津山市教育委員会一九九二「史跡美和山古墳群」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第42集』
- (2) 草原孝典2019「伝中山茶臼山古墳出土の埴輪」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要第11号』岡山市教育委員会

- (3) 倉林真砂斗・澤田秀実編2000『美作の首長墳丘測量調査報告』吉備人出版
- (4) 澤田秀実二〇二〇「奥の前1号墳」『新修津山市史資料編考古』

- (5) 澤田秀実二〇〇七「美作地方の古墳時代」『美作町史通史編』美作町史編纂委員会
- (6) 清喜裕二2010「大吉備津彦命墓の墳丘外形調査報告」『書陵部紀要第61号』

- (7) 註2

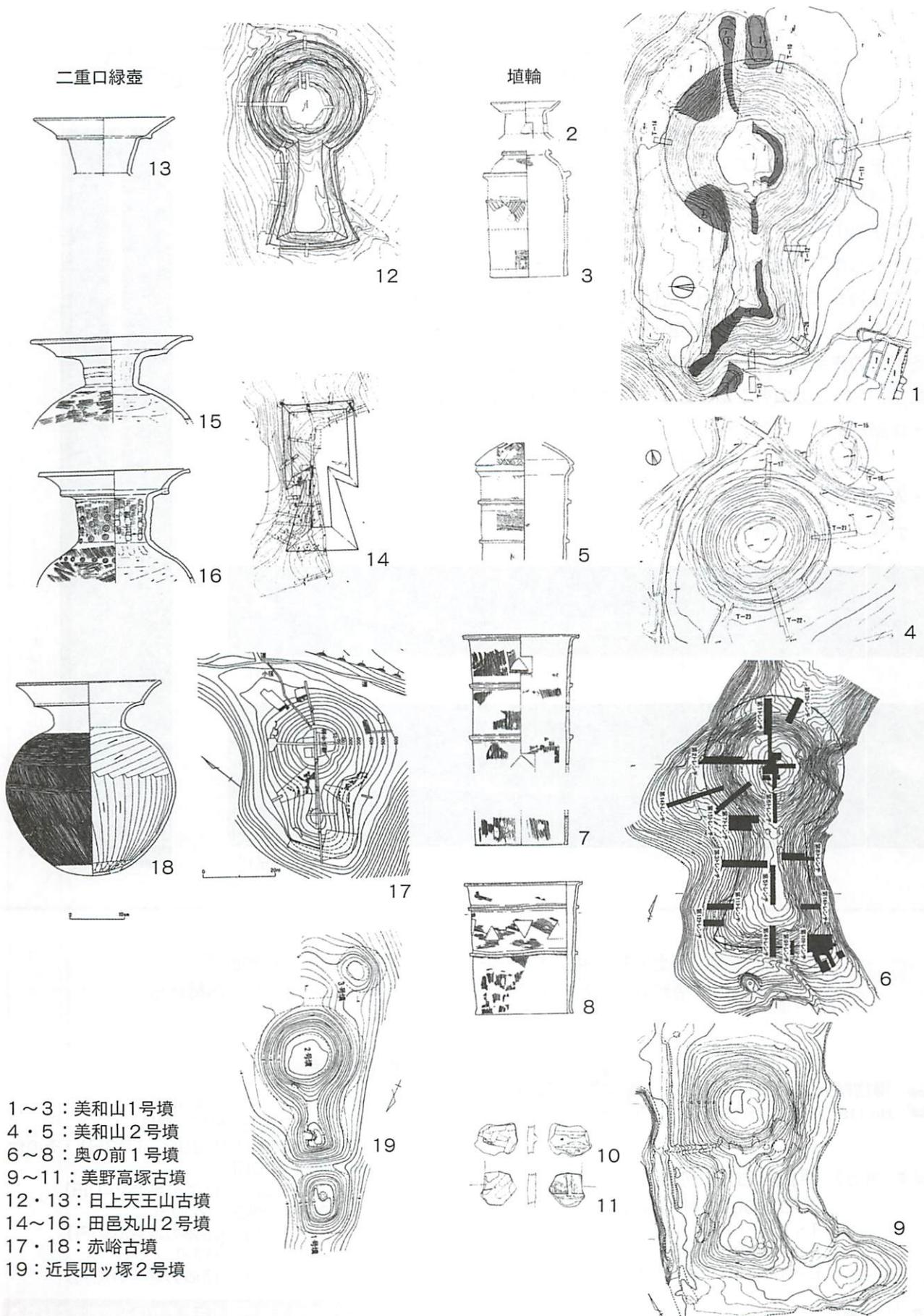
- (8) 小郷利幸「考古資料この一点②」日上天王山古墳の二重口縁壺」『博物館だより2010』津山郷土博物館

- (9) 津山市土地開発公社・津山市教育委員会2000「田邑丸山古墳群ほか」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第67集』

- (10) 鏡野町史編集委員会・鏡野町教育委員会2000「赤峪古墳」『鏡野町埋蔵文化財発掘調査報告第6集』

- (11) 小郷利幸1995「近長四ツ塚古墳群墳丘測量調査報告」『年報津山弥生の里第2号』

- (12) 円・方墳の近長丸山古墳群、方墳の有本古墳群などがある。津山市教育委員会1992「近長丸山古墳群」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第41集』、津山市教育委員会1997「有本古墳群」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第59集』



- 1～3：美和山1号墳
- 4・5：美和山2号墳
- 6～8：奥の前1号墳
- 9～11：美野高塚古墳
- 12・13：日上天王山古墳
- 14～16：田邑丸山2号墳
- 17・18：赤峪古墳
- 19：近長四ツ塚2号墳

図2 美作地方古墳時代前期の首長墳の様相 (1・4・6・9・12・14・17・19…S=1:1500、
2・3・5・7・8…S=1:20、10・11・13・15・16・18…S=1:10)

令和5年度企画展「郷土の刀剣Ⅲ」開催中

古来より鉄の産地として有名だった美作では、多くの刀工が、美作の鉄を使って刀を作ってきました。

江戸時代になり、森忠政が美作一国を領すると、「兼先」や「兼景」といった刀工が津山に招かれ、作刀を始めました。彼らは森家改易後、松平家が領主となってからも作刀を続けました。

本展覧会では、江戸時代初期の「兼景」や中期の「細川正義」・「多田金利」らの刀剣をはじめ、現代の津山の刀工が打った現代刀等郷土津山にゆかりのある刀工の作品のほか、津山松平藩に伝えられた国宝「童子切安綱」の写しなど、約20点の刀剣類をご紹介します（展示期間は3月24日まで）。

・休館日：2 / 19、26、27

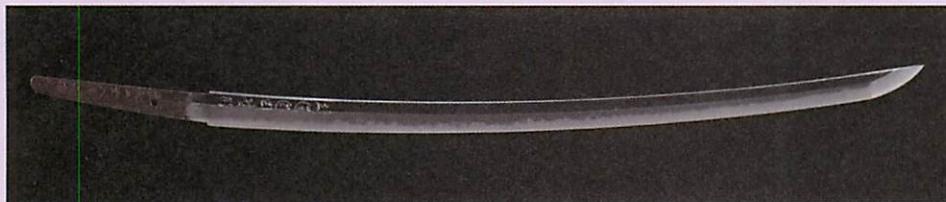
3 / 4、11、18、21

・入館料

一般 300 円、高校・大学生・65 歳以上 200 円、中学生以下無料



太刀 童子切安綱写し



刀 兼景作



大身槍
（岡山県指定重要文化財）

※次回の津山郷土博物館展示予定 企画展「江戸一目図屏風実物展示」

展示期間：令和6年3月30日（土）～令和6年5月6日（月・振替休日）



博物館だより「つく」
No.119 令和6年2月29日



【編集・発行】津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567
Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tv.t.ne.jp

【印刷】二葉

入館のご案内

【開館時間】午前9:00～午後5:00

【休館日】毎週月曜日・祝日の翌日

年末年始（12月29日～1月3日）・その他

【入館料】一般…300円

（30人以上の団体の場合240円）

高校・大学生…200円

（30人以上の団体の場合160円）

65歳以上…200円

（30人以上の団体の場合160円）

中学生以下・障害者手帳を提示された方は入館料が無料です